

新聞掲載碁の小史

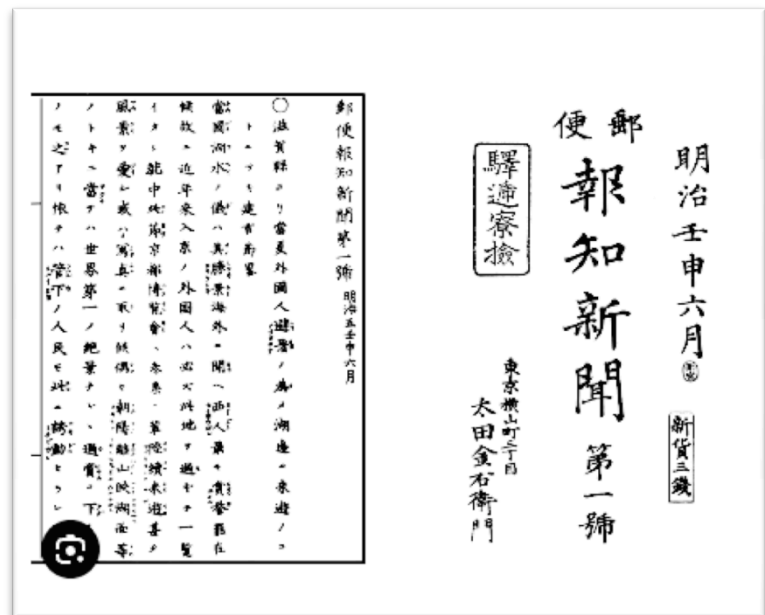
いずれかの新聞を定期購読している方は、毎日対局棋譜を楽しんでいることと察します。本稿は新聞に棋譜が掲載された歴史です。

最初に棋譜を掲載したのは、1872年に創刊された『郵便報知新聞』といわれます。この新聞は自由民権派の政治家、尾崎行雄、犬養毅らを執筆陣にして政論を報じた新聞といわれました。1877年には、西南の役が起こり、記者だった犬養毅の「戦地直報」が読者を惹き付けたようです。この新聞は、日本で始めて新聞写真を掲載し、1898年には案内広告の先駆けとなった「職業案内」欄を創設し、その校正係として日本初の女性記者を採用します。彼女の名前は羽仁もと子です。そして1878年に始めて棋譜が掲載されます。1894年に社名を報知新聞と変えます。

報知新聞は1920年には箱根駅伝を創設したことで知られています。1928年に、社員であった鶴田義行がアムステルダム五輪200メートル平泳ぎで五輪水泳初の金メダル

を獲得します。1967年には市民マラソン第1号となった「青梅報知マラソン」を主催します。報知新聞はこうして、スポーツ、エンターテインメントなど分野で価値ある情報を提供することを特色としていきます。

現在、囲碁界の主たる大会のスポンサーは新聞社です。三大タイトル戦として、棋聖戦は読売新聞、名人戦は朝日新聞、本因坊戦は毎日新聞となっています。毎日の新聞に対局棋譜を掲載し、囲碁ファンを楽しませています。ファンはその新聞を購読し、そこに掲載される広告やサービスを利用して対価を払います。このような各社の囲碁に関するビジネスモデルはすっかり定着しています。



私は琉球で生活していたとき、沖縄タイムスなどを購読していました。この新聞社は13紙から成る新聞囲碁連盟の一員として、同連盟主催の碁聖戦を支えています。その他共同通信社は、同社が主催する棋王戦の予選から5番勝負までの観戦記を契約新聞社の20紙に配信しています。

新聞社は、日本棋院や関西棋院の主たる大会で大きな役割を果たすとともに、日本における棋士の養成や囲碁の普及活動に大きく貢献しています。

(2023年2月20日 大和田囲碁同好会 成田 滋)